

第2次滑川市子ども読書活動推進計画  
(平成30年度～平成34年度)

平成30年3月  
滑川市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	1
II	基本の方針	
1	子どもが読書に接する機会の提供と諸条件の整備・充実	2
2	家庭・地域・学校を通じた社会全体での取り組みの推進	2
3	子どもの読書活動推進に関する理解と周知	2
III	子どもの読書活動推進のための具体的方策	
1	家庭・地域における子どもの読書活動の推進	3
2	幼稚園・保育所（園）・認定こども園における子どもの読書活動の 推進	4
3	学校における子どもの読書活動の推進	6
4	市立図書館・子ども図書館における子どもの読書活動の推進	9
5	滑川市ふるさと教育の環境整備	14
IV	連携・協力推進体制	16
V	資料	
1	滑川市立子ども図書館行事一覧（平成29年度）	17
2	市内小・中学校での読書活動（平成29年度）	18
3	放課後児童育成クラブでの取り組み	22
4	10代の公共図書館利用に関するアンケート	23
5	児童の読書活動と図書館利用についてのアンケート	26

## I はじめに

子どもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子ども読書活動の推進に関する法律第2条）です。

滑川市では、市内の子どもの読書活動の推進を図るため、平成24年度に「滑川市子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域・学校・図書館など社会全体で子どもが読書に親しむことができる環境づくりについての指針を明らかにしました。

この間、滑川市立子ども図書館が平成27年3月に開館するなど、市内での読書に関する環境が向上しています。同時に滑川市立図書館基本構想を策定し、市内における公共図書館としてめざす姿を定めて滑川市立図書館の改装を行い、図書館サービスの提供に努めています。また、各関係機関で読書活動推進のための取り組みが進められているところです。

滑川市教育委員会では、これまでの取り組みの成果と課題、また社会の変化を踏まえて推進計画を見直し、子どもが本をより身近に感じ、また自ら読書に親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

本計画は、平成30年度からおおむね5年間の施策の基本的方向と、県や他市町村と連携・協力して取り組む方策について明らかにするものです。

平成25年3月 滑川市子ども読書活動推進計画策定

平成27年3月 滑川市立子ども図書館開館

平成27年3月 滑川市立図書館基本構想策定

平成29年3月 滑川市立図書館改修工事完成

平成29年度 文科省委託事業 学校司書の資格・養成の在り方や資質能力の向上等に関する調査研究事業

## II 基本の方針

### 1 子どもが読書に接する機会の提供と諸条件の整備・充実

子どもが自主的に本を手に取り、読書の習慣を身に付けるためには、幼少期から読書に親しむことが重要になります。そのため、家庭・地域・学校において、子どもの発達段階に応じた読書環境を整備していくことが必要です。

読書の楽しさを知るきっかけをもち、読書体験を深めていくことで、子どもは「読書の面白さ」や「知る喜び」を知り、自主的に本を読み、情報を探し、活用する力を身に付けていきます。関係機関が連携して、子どもが読書に親しむ機会の提供に努め、施設・設備・人員配置の整備、充実を図ります。

### 2 家庭・地域・学校を通じた社会全体での取り組みの推進

子どもの自主的な読書活動の推進には、家庭・地域・学校がそれぞれ担うべき役割を果たすとともに、これらが連携した社会全体での取り組みも必要になります。

子どもが読書に親しむ機会の充実を図り、読書活動の推進に携わる学校、図書館、児童館等の関係機関が緊密に連携し、相互に協力し、取り組みを推進することが重要です。

このような観点から、家庭・地域・学校それぞれが相互に連携・協力して、子どもの自主的な読書活動の推進を図るとともに必要な体制の整備に努めます。

### 3 子ども読書活動推進に関する理解と周知

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、広く市民が理解し、関心を深める必要があります。

子どもは大人から絵本や物語を読んでもらうこと、民話の語りや郷土の歴史等を聞くこと、読書する大人の姿勢を見ることによって読書意欲を高めます。特に保護者・教員・保育士等が読書活動に理解と関心をもつことが、子どもに自主的な読書習慣などを身に付けさせる上で重要です。

そこで、子どもの自主的な読書活動を推進する気運を高めるため、読書活動の意義や重要性について広く普及・啓発を図るよう努めます。

### Ⅲ 子どもの読書活動推進のための具体的方策

#### 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

滑川市では、子どもが読書を通じて感性を醸成し、生涯にわたって読書の習慣を身につけるために、幼い頃からの読書環境の整備に努めます。そのため子どもが楽しい本に出会えるように環境作りに励み、子どもを育成する立場の大人に向けて「子どもの読書の大切さ」を伝えていきます。

##### (1) 現状と課題

###### ①メディア環境の多様化・ICTの発達

現在、社会を取り巻くメディア環境は多様化しています。テレビやゲームといった電子娯楽に加えて、ICT（情報通信技術）が発達し、SNS（ソーシャルネットワークサービス）が普及したことで、子どもや保護者がスマートフォンなどに触れる時間は長くなっています。スマートフォンの画面を小さい子どもに見せてあやすなど、いわゆる「スマホ子守り」の問題が出ています。それらに比して、読書の時間は減っており、家庭では全く本を読まない児童・生徒も増えています。

###### ②放課後の子どもの保育環境の変化

共働世帯の増加により放課後は放課後児童クラブ等で過ごす児童が増えています。地域で本に触れる機会を増やし、また読書の楽しさを味わうことができるような環境整備に取り組むことが必要となっています。

###### ③ブックスタート事業について

ブックスタート事業を行い、全ての子どもと保護者が早くから本に触れることができる環境づくりに取り組んでいます。

###### ④読み聞かせの研修について

平成27年度、JPIC（出版文化産業振興財団）から講師を招き、読み聞かせサポーター講習会を開催しました。

##### (2) 推進のための取り組み

###### ①乳幼児期の子ども・保護者が絵本に親しむ環境づくり

（ブックスタート事業）

乳幼児期の子どもにとって、保護者による読み聞かせは、保護者の愛情を

感じられる楽しいひとときです。また、新しい世界に触れたり、人間らしい豊かな言葉をたくさん聞くことができたりする、とても重要なものです。

家族での図書館利用を促進し、家庭での読書が習慣となるよう、子ども図書館では、4ヶ月児健診後のブックスタートの絵本の配布と、図書館利用についての説明を行います。

また、ファーストブック（乳児向けの本）を積極的に紹介し、保護者が気軽に絵本を手に取り、選ぶことのできる環境づくりに努めます。4か月児健診以外の健診や子育て支援講座で、発達段階に応じた推薦絵本リストを作成し保護者に配布します。

## ②放課後児童クラブ・公民館・児童館等での図書の充実

放課後児童クラブでは、助成金・基金（例：安心こども基金など）を活用して図書の充実を図ります。子ども図書館からの団体貸し出しなども積極的に利用して、児童のそばにいつも本がある環境づくりに努めます。

公民館で、子どもが日常生活で本の楽しさを感じられるよう、公民館図書の充実に努めます。児童館で読み聞かせ、絵本を題材とした劇の上演や、シアターライブなどを開催して、物語に親しむ機会を設けています。また、図書室やインターネットPCを設置しています。

## ③保護者向けの本の講座・講演会の開催

子ども図書館では、保護者や子どもの読書にかかわる大人のために、子ども向けの本についての講座や講演会などを開催し、読み聞かせの大切さと本の選び方についての理解を深めていきます。今後も、読書ボランティアについての研修会を開催し、必要な技能・知識をもったボランティアの育成を図ります。

### 数値目標

読み聞かせ講習会	H28年度（現状）	H32年度
	—	年1回

## 2 幼稚園・保育所（園）・認定こども園における子どもの読書活動の推進

乳幼児の心身は日々成長しています。また、常に身のまわりの環境に興味をもち、そこから影響を受けています。人格の基礎が形成されるこの時期に、絵本を通じて情操教育を行うことは、子どもの心の成長にとって大切であり、幼稚園・保育所（園）・認定こども園の役割が一段と重要になっています。

## (1) 現状と課題

### ① 図書の充実について

各幼稚園・保育所（園）・認定こども園では、基金などを活用して図書の充実を図っています。園児の興味や発育段階に応じて、より多様で豊富な図書を提供することが必要になっています。

### ② 読み聞かせの推進について

各幼稚園・保育所（園）・認定こども園で、日常的・定期的に絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを通じて本や物語に親しむ取り組みが行われています。

平成 29 年度、子ども図書館が大島絵本館から読み聞かせ講師を招き、市内の幼稚園・保育所（園）・認定こども園計 10 か所で「出張おはなし会」を開催し、園児・職員・保護者等あわせて、合計 1,014 名の参加がありました。

### ③ 図書の貸出しについて

子ども図書館から、絵本や紙芝居、パネルシアターを貸し出し、親子で読書に親しんでもらっています。

「出張おはなし会」に合わせて、1 組 30 冊の絵本セットを子ども図書館で選定し、各園に貸し出しました。

児童向けの広報「どんぐり」を発行し、各幼稚園・保育所（園）・認定こども園・児童館に配付して、おすすめの本の紹介などを行っています。

## (2) 推進のための取り組み

### ① 子どもの発達に応じた絵本の充実

幼稚園・保育所（園）・認定こども園で、子どもの発達状況に応じた絵本を取り揃え、豊かな感性や言語感覚を育むための図書の充実を図るなど、子ども自身が落ち着いて本に親しむことのできる環境づくりに努めます。

### ② 読み聞かせ・読書の方法についての研修

読み聞かせや読書指導の方法について、研修の機会を設け、幼稚園教諭・保育士が保護者や子どもに本の楽しさを伝えられるよう努めます。

### ③ ブックリストの活用・出張おはなし会による読書活動の支援

子ども図書館が作成するブックリストを活用するなど、絵本の選定などについての情報を収集します。出張おはなし会や子ども図書館の団体貸出をよ

り積極的に活用し、遠足などで図書館を訪問し、絵本や読み聞かせに親しむ機会を増やします。

#### 数値目標

子ども図書館団体貸出数 (幼稚園・保育所(園)・認定こども園)	H28年度(現状)	H32年度
	268冊	400冊

### 3 学校における子どもの読書活動の推進

学校は児童生徒の読書活動を広げ、読書の習慣や、わからないことを本で調べて学習することを習慣化する上で、重要な位置にあります。新学習指導要領においても、すべての教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間に共通する配慮事項として「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」とあり、学校図書館はますます大きな役割を担うこととなります。

#### (1) 現状と課題

##### ①子どもの読書活動について

市内の小中学校では、「朝の読書」やボランティア等による読み聞かせなど、読書に親しむ取り組みが行われ、本を読む習慣が身に付きつつあります。また、親子読書への取り組みや、読書冊数を決めて目標をもたせる、多読者の表彰など、積極的に読書する意欲を高めるようにしています。

今後、児童生徒が読解力や学習のための情報収集力を高めるため、どういった取り組みが必要か検討し、改善・工夫に努めていくことが課題です。

##### ②学校図書館について

市内小中学校の学校図書館では蔵書の充実に向けての取り組みが進んでいます。市予算のほか、寄付などを活用し、新しい図書の配置を進めています。

また、市内小学校の学校図書データベースについて、どのように活用していくか、学校図書館間の連携をいかに図っていくべきか、検討が必要になっています。



### 蔵書冊数の推移（冊）

	H25 年度	H29 年度（8 月末現在）
小学校（7 校）	56,576 冊	61,397 冊
中学校（2 校）	21,319 冊	25,238 冊

### ③学校司書・司書教諭の充実について

滑川市では、小中学校併せて5人の学校司書を配置しています。うち1人は専任、4人は2校兼務となっています。また、市内の小中学校9校全てに司書教諭が配置されています。学校司書、司書教諭いずれも平成25年度と比して増員となっています。

学校図書館には、各学校における「読書センター」、学習を支援する「学習センター」、「情報センター」としての機能があります。子どもが読みたい本や知りたい情報を求めるときや、教員が図書を活用したより豊かな教育活動を行いたいとき、その手助けとなるのは、学校図書館資料に精通した学校司書です。このため、専任の学校司書を増やし、研修を通じた資質の向上が求められます。

#### 学校司書

	H29 年度
小中学校（9 校）	専任1名、兼務4名

#### 司書教諭資格者

	H29 年度
小学校（7 校）	計18名
中学校（2 校）	計6名

### ④学校図書館研修の実施について

「学校図書館活用研修会」として、市内小中学校の司書教諭、司書教諭以外の教員、学校司書を対象に、定期的（年1回）に研修会を開催しています。学校図書館に関する講演会や、子どもが利用しやすい図書室についてのグループワークなどの活動を行っています。

平成29年度、文部科学省委託事業として、学校司書の資格・養成の在り方や資質能力向上に関する調査研究事業が行われました。また、先進地視察として、県外の学校図書館支援センターの見学も行っています。

## ⑤市立図書館・子ども図書館との連携について

市立図書館・子ども図書館の団体貸出制度を活用しています。

学校図書館活用研修会に、アドバイザーとして図書館職員が参加して、学校司書や司書教諭に助言を行っています。

## (2) 推進のための取り組み

### ①子どもの自主的な読書活動の推進

子どもが自分から本を手取るには、読書の楽しさを知ることが重要です。学校ではおすすめの本の紹介、読み聞かせ等の読書活動を、今後も推進します。

児童、生徒による図書委員会の活性化を図り、年間を通して図書委員会中心に自主的な読書活動が行われるように支援します。

### ②学校図書館機能の強化

各学校の状況に応じながら、子どもが訪れやすく、じっくりと読書や調べ物ができるような読書スペースを充実させていきます。

新しい情報を得ることができるように資料整備に取り組みます。新聞資料など書籍以外のメディア資料についても収集を進め、子どもの情報活用能力の向上を目指します。

学校図書館は、市立図書館や子ども図書館の団体貸出制度を活用し、必要な資料が児童・生徒に届くよう、市立図書館及び子ども図書館の職員と連携していきます。

市内小中学校で、図書情報・所蔵状況、授業で活用する図書の要望などを把握の上、学校間、市立図書館、子ども図書館と情報を交換し、英語図書等、団体貸出制度を活用しながら、児童生徒、教職員へ効率的に図書を提供し学習支援を行います。

### ③学校司書を中心としたサポート体制の充実

各学校の規模・実態やニーズに応じ、子どもや教職員が積極的な読書活動を行えるよう、サポート体制を整えます。「図書館に行けば学校司書の先生に対応してもらえる」という安心感を与えられる環境整備を目指します。

また、学校司書の研鑽活動に関する調査・研究に取り組みます。

### ④校内での読書推進体制の強化

現在行っている学校図書館活用研修会を継続し、学校司書・司書教諭の研

鑽活動に取り組むほか、各学校において授業で使用する図書等の情報交換を行います。

学校内で司書教諭や担当教諭を中心として、教職員との連携を行い、司書教諭と各教科担当教員が司書と連携して、図書館や図書館資料を活用した授業の実施のための研究を行います。

校内での読書推進体制を確立し、校内研修会を実施するなど、学校ぐるみでの取り組みを目指します。校内研修会では読書指導や先進事例の研究を進め、教職員の読書に対する意識の高揚や指導力の向上を図ります。

#### ⑤家庭・地域との連携による読書活動の推進

家庭や地域ボランティアと協力しながら、家族で読書に取り組むイベントや、地域ボランティアの支援による学校での読書会などの開催に向けて努めていきます。

#### 数値目標

子ども図書館団体貸出数 (学校)	H28年度(現状)	H32年度
	986冊	1,200冊

#### 4 市立図書館・子ども図書館における子どもの読書活動の推進

図書館は、すべての子どもに読書の喜びと大切さを伝える場として、また、地域の読書活動の拠点として、充実・発展させていくことが求められています。

平成27年3月にオープンした子ども図書館は「乳幼児期からの本との出会いを大切にし、豊かな感受性や探究心を育み、親と子が気軽に集い、触れ合う子育て支援・交流施設」としての役割を担っています。

滑川市立図書館基本構想に掲げる「家庭、地域、学校の連携を支え、読書推進を発信する図書館」として、関係機関との協働に取り組んでいきます。

##### (1) 現状と課題

###### ①子どもの図書館利用について

子ども図書館内において月4回、ボランティアによる読み聞かせや紙芝居の上演などの活動が行われています。このほか、月1回、絵本を題材としたDVDの上映会を開催しています。

また、春・夏・冬の年3回、人形劇の上演などを行う「おたのしみ会」を開催しています。絵本作家を招いて講演会やワークショップを開催しました。

子ども図書館では気軽に来館してもらい、本の世界に興味を持ってもらう

ため、様々な子ども向けイベントを開催しています。イベントの参加人数は、年間で延べ5千～6千人と多くの参加をいただいています。

市立図書館4階の学習室とグループ学習コーナーを充実させ、学習環境の整備に努めています。

予約・リクエスト、キッズルーム（学習室）での勉強など、多くの児童・生徒が図書館を利用していますが、すべての子どもが図書館を利用しているわけではありません。特に、中学生以上は読書離れが進みやすく、公共図書館の利用が少ない生徒が多くなっています。

平成29年に県立図書館が行ったアンケート（P23参照）では、（滑川市内で滑川中学校、早月中学校の2年生各校1クラス、計65名）ほぼ半分（33名）の生徒が公共図書館を利用していないと回答しました。

利用しない理由としては、「調べたいことがあれば、インターネットを使う」「読書に興味がない、読書の習慣がない」「図書館が学校や家から遠い」「学校の図書館（図書室）を利用しているから」などがありました。

また、どのような本があれば利用したくなるか、という問いに対して、「趣味・娯楽の本」「小説・エッセイ」「マンガ」「CD・DVD」の充実を求める声が多くありました。

どのような設備があれば利用したくなるか、という問いに対しては、「喫茶・飲食コーナー」「自習・学習室コーナー」「おしゃべりができるスペース」という回答が上位でした。

より多くの子どもに図書館を利用し、読書活動の場として、また図書館の本を活用した学習の場（学習室の利用）としてもらえるよう、子どもや保護者への働きかけを行っています。

## ②資料の充実について

現在、子ども図書館では、大型絵本・しかけ絵本・パネルシアターなど含め、多彩な絵本・紙芝居・児童書を所蔵しています。

また、図鑑・事典などの更新及びDVDの視聴覚資料の充実など、子どもにとって魅力ある書架づくりに取り組んでいます。今後さらに継続して図書や資料の充実に取り組む必要があります。

郷土資料についても、専用のコーナーを設けて、児童・生徒や一般市民が気軽に閲覧できるような工夫を行っています。

## ③職員について

図書館の職員は、様々な図書と子どもの出会いの仲立ちをする役目を持つ

ています。子どもの成長段階や要求を理解し、資料の選択、収集、読書相談やレファレンスなどの読書活動の支援を行うためには、専門的知識と技術を備えた司書の存在が不可欠です。質の高いサービスの提供のためにも、引き続き長期的視野に基づき、計画的な司書の配置が望まれます。

また、子ども図書館に保育士を配置し、子育て相談に応じる等、若い子育て世代を支援する体制を強化しています。

#### ④ブックスタート事業について

子ども図書館では赤ちゃん向け絵本を贈呈し、赤ちゃんと保護者が絵本に触れ合う機会を設けています。ブックスタートは4か月児健診の際に案内を行い、絵本を子ども図書館で配付しています。平成28、29年度は滑川市のイメージアップキャラクター「キラリン」を主人公にした絵本「キラリン 光の旅」を製作し、ブックスタート事業で配付しました。早い段階から本に親しみ、本を読んでもらうことに喜びを感じてもらい、また家庭における読書や子どもの読書活動について保護者の理解を深めることを目的としています。

#### ⑤学校や保育所、幼稚園等への読書支援体制

平成28年度、寺家小学校で全校生徒を対象に出前授業を行い、子ども図書館の利用について紹介しています。

学校や放課後児童クラブへの団体貸出のほかに幼稚園・保育所（園）・認定子ども園・小学校からの課外授業などの訪問の受け入れを行っています。

また、学校図書館活用研修会へ職員をアドバイザーとして派遣するなど指導力の向上に努めています。

#### 団体貸出数

H25年度（図書館）	H28年度（子ども図書館）
1,718冊	2,281冊

### (2) 推進のための取り組み

#### ①利用しやすい環境づくり

子ども図書館は、「子ども向けの本が置いてあるだけ」でなく、子育て支援・交流施設であることを広く周知し、より多くの家族に利用してもらえるよう努めます。

子どもや保護者が安心できる、楽しい時間を過ごすことができるよう利用者の声により耳を傾けるよう努めます。

市立図書館の喫茶コーナー（公園側テラス）・学習室、子ども図書館の学習室での読書やインターネット利用環境（無線LAN）の活用を進めます。

またこちよいBGMを流したり、中学生などの美術作品を展示したりするなど、明るく憩いやすい空間づくりに努めます。

## ②魅力ある書架づくり

乳幼児、小中学生などそれぞれの子どもの成長段階に応じて、子どもが適切な図書を手にするよう、資料の充実に努めていきます。

また、児童・生徒が継続的に読書に対する意欲を持てるよう、読みたい本のリクエストを広く集め、児童向け図書やヤングアダルトコーナー（中高生向き）の充実に力を入れていきます。

おすすめ絵本についてのブックリストや特集コーナーの設置により、子どもの読書活動への支援に努めます。

幅広く教養・知識を身に付けられるよう、子ども・青少年向けの新聞やDVDなど様々な方面の資料を収集し、常に新鮮な情報に触れることができるよう努めます。

雑誌、新聞、趣味・生活関連の本を中心としたコーナーを作るなど魅力ある書架づくりに努めます。

## ③職員・ボランティアの研修の充実

来館者へのサービス向上を図る研修を行うなど、子どもや保護者が気軽に相談し、的確に対応できるよう職員の資質向上を図ります。

読み聞かせ会などで、ボランティアの存在は不可欠なものになっています。ボランティア団体の活動の支援を今後も継続して行っていくほか、ボランティアの育成拡大と質の向上を目指します。そのため、研修・研究の場を提供するなど、活動が充実したものになるよう努めます。

## ④関係機関との連携強化

学校図書館や幼稚園・保育所（園）・認定こども園と連携して今後も団体貸出や団体利用の受け入れを積極的に行っていきます。また、小中学校での調べ学習などに対応できるよう、学校司書や司書教諭と密に連絡を取りながら必要な図書を購入していきます。

学校図書館研修会に参加し、学校図書館関係者の要望を聞きながら相互理解を深め、連携を強めていきます。

児童館や子育て支援センターと連携した子育て支援に関するイベント、読

書週間に合わせた多様なイベントの実施や、子ども課、市民健康センターと連携した子育て相談を実施します。

#### ⑤放課後子ども教室の実施

放課後子ども教室を実施し、図書館の資料を使った調べ学習や英語について学ぶことができる場を設け、子どもが調べ学習や英語の楽しさを実感できるような体制をつくります。

#### ⑥小中学校における学習支援

授業に必要な図書を提供することで、学習を支援し本を活用する力の育成を図ります。小中学校での調べ学習に対応できるよう、学校司書や司書教諭と密に連絡を取りながら必要な図書を購入していきます。

#### ⑦すすめたい本の普及・啓発

図書館で選定した本のみならず、各種団体が推薦する本や課題図書として選定された本などの、優良図書についてのリストを作成し、学校図書館、幼稚園・保育所（園）・認定こども園へ定期的に配布して、子どもが、良書を知り、良書に触れる機会が多くなるように努めます。

小中学校へ、すすめたい本をコンテナに詰め、定期的に団体貸し出します。

#### ⑧障害のある子どもの読書活動の推進

経験豊かな保育士職員が障害の程度に応じ、楽しく読書活動ができるように支援します。

#### ⑨子ども読書の日取り組み

子ども読書週間（4月23日～5月12日）を中心として読書に親しんでもらえるようなイベント・企画を行います。

#### 数値目標

	H28年度（現状）	H32年度
貸出冊数（冊）	73,124	75,000
来館者（人）	30,655	35,000
イベント（回）	238	240
団体貸出（冊）	2,281	2,500
研修回数（回）	23	25

## 5 滑川市ふるさと教育の環境整備

ふるさと教育は、先人の取り組みを知り、郷土のよさを伝えていくために必要不可欠なものです。豊かな自然、歴史ある滑川市で生まれ育った先人の生涯を伝える人物伝、郷土の歴史や民俗を学ぶことは、未来に向かって生きる子ども達の心の指針になるものです。

### (1) 現状と課題

#### ①ふるさと教育スタートの機会提供について

子どもには、早い時期からふるさと教育を受ける環境が望まれます。

平成28年3月には、滑川市のイメージアップキャラクター「キラリン」を主人公にした絵本「キラリン 光の旅」を製作し、ふるさと教育スタートの機会提供に努めました。また、市内に伝わる民話について、紙芝居を製作し、ケーブルテレビNet3で放映しました。

#### ②ふるさと教育推進事業について

ふるさと教育推進事業の中で行われている見学バスツアー内で、地元の方に郷土に伝わるお話を語ってもらう企画をしています。

### (2) 推進のための取り組み

#### ①ボランティアなどによる郷土の民話や紙芝居作成、読み聞かせ

幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小中学校では、ボランティアなどによる郷土の民話や紙芝居、パネルシアターなどの利用増進を図り、読み聞かせ会などを行う機会を増やすよう努めます。教育委員会では、その取り組みを支援するとともに、民話を幼児向けに再編し、幼稚園、保育所(園)、認定こども園への配付を検討するなど、支援を行います。

#### ②児童向け民話や郷土資料の収集・所蔵の充実

ふるさとの歴史・文学に触れ、より親しむ機会を増やすため、市立博物館とも連携し、児童向けの民話や郷土資料の収集・所蔵に努め、郷土資料の充実を図ります。

#### ③ふるさと教育推進事業による語り部の育成・朗読会の開催

公民館では、ふるさと教育推進事業による語り部の育成や朗読会を開催するなど、地域に愛着が持てるような事業を推進します。



教育委員会では、①～③の事業を支援するために、子どもが親しめるふるさと教育の資料や地域の歴史をよく知る人材をデータ化し、整理・管理するいわゆる人材バンクの整備に努めます。

## IV 連携・協力推進体制

### 1 今後の推進方法について

この計画を子どもの読書活動推進に関わるすべての人が共有し、それぞれが各々の役割を果たし、滑川市における子どもの読書活動を地域全体で連携・協力して推進する必要があります。

このために、図書館、幼稚園・保育所（園）・認定こども園、学校、児童館、公民館、教育センター、市民健康センターなどの機関はそれぞれの分野で読書活動の推進に主体的に取り組み、また関係する機関との綿密な情報・意見交換に努めます。

ボランティアと連携し、読み聞かせなどについてさらに充実を図り、団体の活動を支援していきます。

この計画を広く市民に広報し、読書活動の意義や重要性について啓発していきます。また、保護者や地域住民が子どもの読書活動に積極的に関わり、参加できるように努めていきます。

### 2 財政措置

本計画の各種施策が確実に遂行できるように、関係機関はその役割に応じた必要な財政上の措置を講じるように努めます。

## V 資料

### 1 滑川市立子ども図書館行事一覧（平成 29 年度）

行事	内容	開催日程
おはなし会	絵本・紙芝居の読み聞かせ、うたあそび 折り紙工作など。  第1・2週 図書館ボランティア &子ども図書館職員 第3週 市内ボランティア団体 「おはなしママの会」 第4週 市内ボランティア団体 「たんぼぼの会」 第5週 子ども図書館職員	毎週土曜日
こども映写会	絵本を原典としたアニメーションDVDの上映会。	毎月第3土曜日
おたのしみ会 (春・夏・冬)	県内外のボランティア団体を招き、絵本の読み聞かせや人形劇など。	年3回
にこにこたいむ	乳幼児とその保護者を対象に、うたあそび、てあそび、パネルシアターなど	毎週火曜日

## 2 市内小・中学校での読書活動（平成29年度）

学校名	取り組み事例
寺家小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内読書週間の実施 (多読児童の紹介、おすすめ本の紹介、本の帯づくり等)</li> <li>・ 地域ボランティアとの連携 (毎週水曜日の朝学習の時間(20分間)全学年に読み聞かせ)</li> <li>・ 県外の公共図書館の視察について、結果を校内研修会で報告</li> </ul>
田中小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝学習での読書の時間を設定</li> <li>・ 図書館司書による読書指導の推進及び定期的に読み聞かせ</li> <li>・ 意欲的に読書に取り組んでいる児童を校内放送で紹介</li> <li>・ 読書推奨コーナーの設置</li> <li>・ 学年便り・学校便りを通しての家庭に読書に対する啓蒙</li> <li>・ 市教育委員会、市教育センターと連携して図書館の活用に関する研修の実施</li> </ul>
東部小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おすすめの本の紹介</li> <li>・ 図書委員児童による読み聞かせ</li> <li>・ 読書ビンゴを実施し様々なジャンルの読書の呼びかけ</li> </ul> <p>※別紙参照 (P21)</p>
北加積小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の個人目標冊数を各学年で設定</li> <li>・ 毎朝15分間は「読書の時間」 月2回を「読み聞かせの日」として学校司書・地域ボランティア等による読み聞かせの実施</li> <li>・ 毎週水曜日は「ノーメディア・外遊びの日」 帰宅後の「家読(うちどく)：家での読書」の推奨</li> <li>・ 「朝の読書の時間」の取組を見直す研修会を定期的実施 (読書週間の定着、読書の質の向上、読解力の育成などの観点から行う)</li> </ul>
東加積小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館司書による朝の時間の読み聞かせ(週2回、対象：1～4年生)</li> <li>・ 各学年で必読書と年間読書冊数を設定</li> <li>・ 週末に本を借りて家庭で読書をするよう呼び掛け</li> </ul>

東加積小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期に親子読書を実施</li> <li>・ 校内でのアクションプランに読書の習慣化についての目標を設け年度初めに具体的な方策を検討。学期末には成果と課題について話し合い、方策の見直し。</li> </ul>
南部小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火～金曜日の朝の15分間を読書タイムに設定</li> <li>・ 図書委員会で学年（学級）ごとの貸出冊数の発表（毎月）</li> <li>・ 昼の放送で図書委員のおすすめ本の紹介</li> <li>・ 新着本の予約制度</li> <li>・ 一人2冊貸出、貸出数達成者には「1冊追加券」の発行</li> <li>・ 昼の放送で、学校司書からの本の紹介や朗読</li> <li>・ 木曜日の朝活動時に地域ボランティアの方の「お話しタイム」（1学期は1～4年生、2学期からは高学年にも実施）</li> <li>・ 親子読書の取組（年2回）</li> <li>・ 「とよしつだより」を発行（不定期）して、親子読書の感想の紹介</li> <li>・ 「学校だより」での読書の啓蒙</li> <li>・ アクションプランで目標冊数を決め、読書カードの記入</li> <li>・ 貸出カード更新ごとに、カードへのシールの貼り付けと掲示板への掲示</li> <li>・ アクションプランについて、学期に一度、全教員で検討</li> <li>・ 終礼での図書委員会の取組</li> </ul>
西部小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ボランティアによる読み聞かせ</li> <li>・ 6年生による1年生への読み聞かせ</li> <li>・ 先生のおすすめ図書の紹介</li> <li>・ 朝の読書タイム（10分間）</li> <li>・ 親子読書</li> <li>・ 図書委員による集会</li> <li>・ 学校図書館司書による図書館利用のオリエンテーション（各クラス1時間ずつ）</li> </ul>

滑川中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書委員会による啓蒙活動</li> <li>・ 図書新聞の発行</li> <li>・ 掲示物や校内放送による情報発信</li> <li>・ 多読賞の表彰</li> <li>・ 図書館司書による図書室のコーディネート</li> </ul>
早月中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の読書</li> <li>・ 新入生オリエンテーション</li> <li>・ 年3回の図書新聞の発行</li> <li>・ 図書アンケート（全生徒）</li> <li>・ おすすめ本の紹介文（全生徒）</li> <li>・ 各学級へ学級文庫として図書室の本を20冊貸し出し （每学期入れ替え）</li> </ul>

H28 読書ビンゴカード 名前

P18  
東部小

こは ( ) / ~ /	<small>いんぶつ せいぶつ</small> 動物・植物 ( ) / ~ /	<small>えほん</small> 絵本 ( ) / ~ /
<small>しよ ほん</small> 昔話 ( ) / ~ /	<small>じゆく</small> 学年のおすすめの本 ( ) / ~ /	<small>しゃかい</small> 社会 ( ) / ~ /
<small>でんき</small> 伝記 ( ) / ~ /	<small>れきし ちり</small> 歴史・地理 ( ) / ~ /	<small>ぶつご</small> 物語 ( ) / ~ /

※たて、よこ、ななめのどれか1列をえらびてビンゴをつくらう。  
 ※読んだ本の題名、著者、頁数を記入しよう。  
 ※書いておいた本を借りて読んでみよう!!



えほん  
絵本  
(じんぐりむらの  
おまわりさん)  
1/18 ~ 1/23

↑ ↓  
借りた日 返した日

### 3 放課後児童育成クラブでの取り組み (H29. 6月 電話での聞き取り結果)

問1. 最近、本を購入しているか。また、購入方法について

- 4月に図鑑等を購入している。市からの予算とクラブのお金で購入している。H22年に安心子ども基金を活用してDVDなどを購入している。
- 市からの予算の範囲内で備品等購入している。そのほか家庭で読まなくなった本を寄贈してもらっている。
- 折り紙の本などを購入している。抽選で本が当たる講談社の企画に応募したことがある。
- DVDなどを購入している
- 学習コミックや絵本など購入している。H28年の夏に、図鑑や児童書・絵本を30冊プレゼントする企画に応募した。
- 最近で購入していない。

問2. クラブ内での読書への取り組み

- 宿題が終わった後、本を読んでいる子がいる。そのほかDVDを見たりしている子もいる。夏休みは12時から12時半まで本を読む時間をとっている。
- 学習時間の後に子どもが読んでいる。
- 子どもが自由に読んでいる。
- 絵本・紙芝居について、読んで子どもに言われたら、読み聞かせをしている。
- 夏休み期間は毎日、読み聞かせの時間をとっている。通常は、宿題をする時間が終わった後、本を読んだりDVDを見たりしている。
- 児童クラブで持っている本については、3年生が主になって貸出票をつくり、他の生徒に貸し出しをするということをやっていた。
- 夏休みの朝学習(2時間ほど)後は読書の時間に行っている。



#### 4 10代の公共図書館利用に関するアンケート（富山県立図書館） 滑川市分調査結果

（滑川中学校・早月中学校2学年 各校1クラス 計65人）

##### 設問1 公共図書館の利用とその目的について

(1) あなたは、身近にある公共図書館をふだん利用していますか。

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| 1. よく利用する           | 1人  |
| 2. ときどき利用する         | 31人 |
| 3. 利用しない（利用したことがない） | 33人 |

(2) よく利用する人やときどき利用する人にお聞きします。

A. 公共図書館を利用するおもな目的は何ですか。次のうちから1つ選んでください。あてはまるものが複数ある場合は3つまで選んでかまいません。

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| 1. 本を読む、借りる                | 27人 |
| 2. 調べ物をする                  | 15人 |
| 3. 自分の参考書や問題集を使って勉強・自習     | 6人  |
| 4. 図書館の本や事典・参考書などを使って勉強・自習 | 3人  |
| 5. インターネットを利用する            | 4人  |
| 6. 友人とおしゃべりをする             | 5人  |
| 7. のんびりくつろぐ                | 9人  |
| 8. 図書館のイベント・行事に参加する        | 0人  |
| 9. その他                     | 0人  |

B. 利用する時は、誰と一緒に図書館に行くことが多いですか。

- |           |     |
|-----------|-----|
| 1. 一人で    | 7人  |
| 2. 友人と一緒に | 9人  |
| 3. 家族と一緒に | 15人 |
| (無回答)     | 1人  |

(3) 利用しない（利用したことがない）人にお聞きします。

A. 公共図書館を利用しないおもな理由は何ですか。次のうちから1つ選んでください。あてはまるものが複数ある場合は3つまで選んでかまいません。

1. 読書に興味がない、読書の習慣がない	13人
2. 読みたい本や、興味のある本がない	7人
3. 調べたい本や、参考にしたい本がない	0人
4. 部活動や塾・習い事などで忙しい	10人
5. 学校や家から遠い	14人
6. どこにあるかを知らない	4人
7. 利用したい時間・曜日に図書館が閉まっている	0人
8. 図書館の使い方や本の選び方・探し方が分からない	0人
9. 図書館の雰囲気が好きではない	6人
10. 調べたいことがあれば、インターネットを使う	17人
11. 学校の図書館（図書室）を利用する	10人

B：公共図書館を利用しない人は、普段、勉強や塾・部活動以外で、自分の自由になる時間は主に何をすごしていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

1. テレビ・ゲーム	15人
2. メール・インターネット（SNS、動画視聴含む）	6人
3. マンガ	0人
4. 読書	2人
5. 友人や家族とすごす	6人
6. その他	3人

記述（おやつを食べる、音楽を聴く、パズルをする）

設問2 公共図書館のイメージや利用したくなる図書館について

(1) あなたの身近にある公共図書館のイメージに最もあてはまるものを次より1つ選んでください。

1. 静か	20人
2. 本がたくさんある	12人
3. 落ち着く	6人
4. 楽しい	4人
5. 入りづらい	10人
6. 暗い	1人
7. 本が少ない	1人
8. 中高生が少ない	7人

- |                  |    |
|------------------|----|
| 9. その他（記述 人が少ない） | 1人 |
| （無回答）            | 3人 |

(2) あなたの身近にある公共図書館にどのような本や資料があれば（充実していれば）、利用したいと思いますか。次のうちから1つ選んでください。あてはまるものが複数ある場合は3つまで選んでかまいません。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. 実用書（生活に役立つ本）  | 9人  |
| 2. 趣味・娯楽         | 28人 |
| 3. 小説・エッセイ       | 25人 |
| 4. 専門書           | 5人  |
| 5. 辞書・事典         | 1人  |
| 6. 雑誌            | 13人 |
| 7. 新聞            | 1人  |
| 8. 進路関係          | 4人  |
| 9. CD・DVD        | 20人 |
| 10. マンガ          | 24人 |
| 11. ライトノベル       | 8人  |
| 12. 学習参考書・問題集    | 14人 |
| 13. その他（記述 図鑑など） | 2人  |

(3) あなたの身近にある公共図書館にどのような設備や空間があれば（充実していれば）、利用したいと思いますか。次のうちから1つ選んでください。あてはまるものが複数ある場合は3つまで選んでかまいません。

- |  |     |
|--|-----|
| 1. 気軽に何でも聞けるカウンター  | 10人 |
| 2. パソコンや視聴覚機器  | 16人 |
| 3. 喫茶・飲食コーナー   | 45人 |
| 4. 自習・学習室（コーナー）  | 31人 |
| 5. 中高生向け図書コーナー（本棚）   | 10人 |
| 6. イベントや催し物ができるスペース  | 5人  |
| 7. おしゃべりができるスペース（テーブル、談話室など）                               | 31人 |
| 8. その他（記述 ゲームができるところ、水槽コーナー、<br>1人1人の囲ってある机、個人で利用するテーブル・机） | 4人  |

# 5 児童の読書活動と図書館利用についてのアンケート

平成29年12月(9月実施)  
滑川市教育委員会

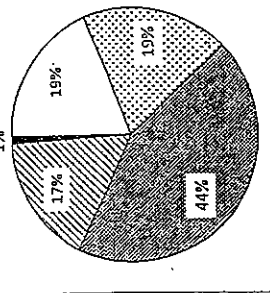
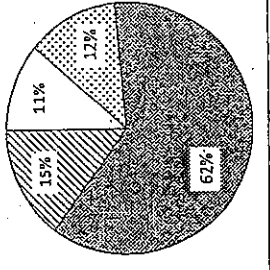
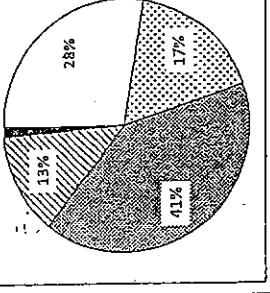
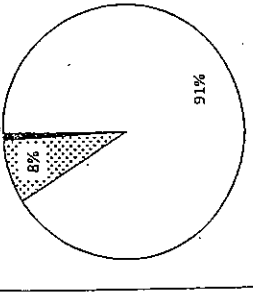
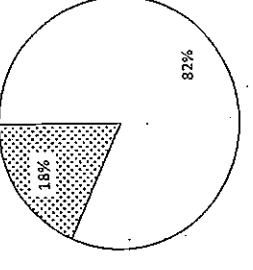
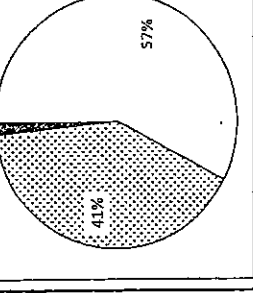
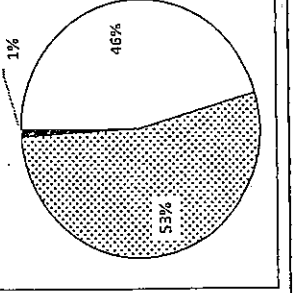
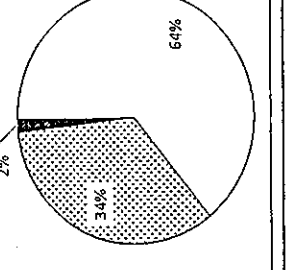
児童の読書活動、図書館利用についてのアンケート結果の考察

子供の読書活動の推進等に関する調査研究  
(平成29年7月・文部科学省委託調査)の類似する調査  
【全国の小学4・5年生】

設問	内容	本市6年生	本市3年生	全国的な調査結果
読書 1	読書は好きですか。	<p>【6年】読書は好きか。</p> <p>□好き ▨どちらかといえば好き ▩どちらかといえば嫌い □嫌い ■無回答</p>	<p>【3年】読書は好きか。</p> <p>□好き ▨どちらかといえば好き ▩どちらかといえば嫌い □嫌い ■無回答</p>	<p>【4, 5年】読書は好きか。</p> <p>□とても思う □やや思う ▨あまり思わない □全く思わない ■無回答</p>
読書 2	平日にどれくらい読書を読みますか。	<p>【6年】平日の読書時間</p> <p>□3時間以上 □2時間 ▨1時間 ▩30分 □ほとんどしない ■無回答</p>	<p>【3年】平日の読書時間</p> <p>□3時間以上 □2-3時間 ▨1-2時間 ▩30分-1時間 □30分未満 □ほとんどしない ■無回答</p>	<p>【4, 5年】平日の読書時間</p> <p>□3時間以上 □2-3時間 ▨1-2時間 ▩30分-1時間 □30分未満 □ほとんどしない ■無回答</p>
	評価	<p>本市の「好き」「どちらかといえば好き」と全国の「とても思う」「やや思う」を比較した場合、本市3年生は全国を上回り、6年生は全国とほぼ同じである。 学年が上がるにしたがって読書好きは減るが、全国と比べて低くはない。 ⇒読書好きな児童をさらに増やしていくようにしたい。</p>		
	評価	<p>(本市と全国では、選択肢の範囲の取り方が違うので、正確な比較はできないが)本市は「ほとんどしない」が多い。(3年：27%、6年29%、全国：14%) 逆に、読書を多くしている児童の割合は少ないとはいえない。 ⇒平日に、ほとんど読書をしない児童の数を減らしていくための手立てを考えた。</p>		

児童の読書活動、図書館利用についてのアンケート結果の考察

平成29年12月(9月実施)

<p>学校図書館 4</p>	<p>データの 学校の図書館で1か月にどれくらい本を借りますか。</p>	<p>【3年】 学校図書館で月に借りる冊数</p>  <p>□ 10冊以上 □ 5～9冊 □ 1～4冊 □ 読まない ■ 無回答</p>	<p>【6年】 学校図書館で月に借りる冊数</p>  <p>□ 10冊以上 □ 5～9冊 □ 1～4冊 □ 読まない ■ 無回答</p>	<p>【4, 5年】 学校図書館で月に借りる冊数</p>  <p>□ 10冊以上 □ 4～5冊 □ 1～3冊 □ 読まない ■ 無回答</p>
<p>市図書館 2</p>	<p>データの 子ども図書館を利用したことがありますか。</p>	<p>【3年】 子ども図書館の利用経験</p>  <p>□ ある □ ない ■ 無回答</p>	<p>【6年】 子ども図書館の利用経験</p>  <p>□ ある □ ない ■ 無回答</p>	<p>【4, 5年】 地域の図書館の利用経験</p>  <p>□ 行く □ ほとんど行かない ■ 無回答</p>
<p>評価</p>		<p>「読まない」は全国との差はないが、やや多い。(3年：17%、6年：15%、全国：13%) 本市では、月に5冊以上読む児童が3年生で38%、6年生で23%。全国では4冊以上読む児童が45%。(本市と全国の選択肢が違うので何ともいえない)</p>		
<p>データの 市立図書館を利用したことがありますか。</p>		<p>【3年】 市立図書館の利用経験</p>  <p>□ ある □ ない ■ 無回答</p>	<p>【6年】 市立図書館の利用経験</p>  <p>□ ある □ ない ■ 無回答</p>	<p>本市では、子ども図書館または市立図書館を利用したところのある児童が多い。 利用経験に加えて、利用頻度についても調べてみる必要がある。</p>

